

# 佐田まちづくりいばぎ

第119号



スマホでカラー版が見れます

## 第一回役員会開催

六月二十五日（木）、令和二年度初の役員会を開催しました。

第一回目の議題は例年通り「今後の活動について」。盆踊りや敬老会などについて話しを進めていくのが通例ですが、今回はいつもとは違い、「これから」取り組むべき活動が、ことごとく中止という決断をせざるを得なくなり、重たい雰囲気になれず、忍ぶ、そんな会議となりました。

しかし、やれることは取り組んでいかないと、まち協の意味がない。

ということで、七月一日に、小規模集落応援隊による徳瀬地区の草刈り、佐田京石周辺、佐田交差点の草刈り等美化活動及び古紙等回収を実施することを決めました。（活動状況は次号で）



七月一七日には、地区体委員会が開催されました。

佐田小学校との協働による地区体は、規模を縮小してですが、開催

に向けて思案中です。新型コロナウイルスの感染防止に最善を尽くしながら取り組んでいきますが、まだまだ予断を許さない状況は変わることなく、先の見えない中を暗中模索しながらの活動です。

ただ、何をするにしても、地区民の皆様のご協力が不可欠です。一〇年後も元気なまち、実現に向け、各活動へのご理解、積極的な参加をよろしくお願いたします。



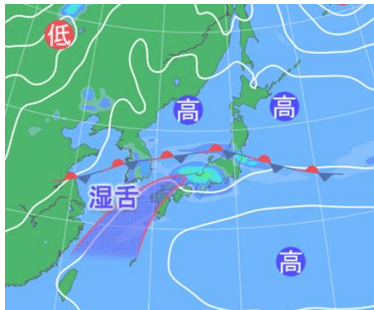
## 令和2年7月豪雨



梅雨の終盤になると、中国大陸南部から前線に沿って温かい風が吹き、東シナ海を渡る間に大量の水蒸気を含む。

温かく湿ったこの空気が日本列島まで伸びる様子が「舌」に似ていることから「湿舌」と呼ばれるそうです。

太平洋高気圧に沿って風が吹き西側では南から北に向かって水蒸気を含んだ温かい風が吹く。



これらの風が前線付近でぶつかるると上昇気流が生まれ、積乱雲が次々と誕生して激しい雨を長時間降り降らせらる。

これが、梅雨終盤の嵐のメカニズムだそうです。しかし今年は、といえはあまりにも降りすぎでは。

経験したことのない、何十年に一度の豪雨。

テレビを見れば、そう表現されていました。今では連日の雨、雨、雨。

先日、この一連の豪雨を「令和二年七月豪雨」と名付けられました。

天気予報ではまだまだ九州北部は雨の予報。

佐田地区では、何件か土砂崩れが発生しています。けがをされた方はいないようで、その点は良かったです。

けれど、油断大敵。

何が起ころるか想像がつかない今、危険は隣りあわせです。人命、安全第一です。避難箇所は佐田小学校が指定されています。明るいうちに、身の安全を確保しつつ早めに動き出してください。

この便りが皆様に届くころ、皆様が無事に笑顔で梅雨明けを迎えられていればいいなと思います。皆さん、ご安全に!!



7月18日の美化作業を前に、当日参加者の負担が少しでも軽くなればとの思いから、梅雨の雨間、晴れ間の覗いた7月9日、河野女性部長夫妻が佐田京石駐車場周辺及び佐田地区公民館前の自動売機周辺に、除草剤を撒いてくれました。

息ピッタリで作業して下さいましたお二方、お疲れ様でした。ありがとうございました。